

令和四年四月十七日、壺溪塾の入塾式が市民会館シアーズホーム夢ホールで行われました。塾生をはじめ、保護者の方々、壺溪塾の職員一同の、これから頑張っていくという決意が伝わってきました。入塾式に参加出来なかった保護者の方々にもその様子をお伝えしたく、入塾式の様子をまとめてみました。

塾長式辞からはじまり、教職員紹介、壺溪塾卒業生による激励のことが三名の卒業生から贈られ、壺溪塾出身の地元大学生で組織されるチューターによる激励などが行われました。



市民会館シアーズホーム夢ホール

## 令和4年度 大学受験科入塾式

令和4年4月17日

### 1. 式辞

塾長 木庭 順子

### 2. 教職員紹介

### 3. 壺溪塾卒業生による激励のことがば

東京大学	文科二類	1年	古京和樹さん
熊本大学	医学部医学科	1年	岡部文奈さん
熊本大学	法学部	1年	野田唯那さん

### 4. チューターによる激励

壺溪塾卒業生チューター

以上

## 式辞 塾長 木庭 順子

壺溪塾新入塾生の皆さん、今、皆さんはどんな気持ちでここに座っていらっしゃるでしょうか。悔しい気持ち、情けない気持ち、不安な気持ち、本当は予備校の入塾式などに出たくはなかったと本音では思っていない方もいらっしゃるでしょう。今のその悔しい気持ちをどうか胸に刻んでください。ここぞという時に思い出し、進んでいく原動力にしてください。でも授業が始まる明日からは、どうか胸を張って明るい気持ちで前に進んでいきましょう。

皆さんが選んでくださった壺溪塾は熊本市の内坪井の地に昭和五年、一九三〇年に誕生しました。お手元の式次第裏にあるセピア色の写真の真ん中にいるのが初代塾長木庭徳治です。木庭は禅を組む人でした。壺溪は木庭の雅号です。坪井川の清流というところから取られたのだと思います。四十人でスタートした小さな予備校に壺溪塾という名がつけられました。設立当初から壺溪塾には教育理念があります。それは「単に大学に通るだけではなく高い知性と美しい人間像の完成を目指す」というものです。皆さんの今日からの目標は「大学に合格すること」だけではありません。知性を磨く、心を磨くということを視野に入れ、より広く高い普遍的な目標に向かって努力をしていきましょう。そうすれば自ずと合格がその手に掴めるということでもあります。

「心を磨く」ということを体現する取り組みが壺溪塾では昭和五年から行われています。それは毎朝の静坐です。机に向かっていている時、問題がすっと頭に入ってくるような集中できないときがあります。この集中力を鍛えるのが静



塾長式辞

坐です。始業前の八時二〇分に私がホームルームをまわり、静坐を組みます。静坐は二週目から始めます。組み方はそのときにお伝えします。予鈴の鳴る八時二〇分にはホームルームに入っておいでくださると嬉しいです。

壺溪塾の朝は昔から早いことで知られています。朝早くまだ暗いうちから塾生たちは開門を待って現在の男子寮の梁山泊寮があるところから一区画の角まで列ができて並んでいたといいます。そして門が開くと塾生たちは少しでも前に座ろうとどどどと走って席取りする姿が毎朝見られました。現在でも開門は午前七時です。先輩たちに続いて皆さんも早朝自習をしてください。試験は朝からありますので、なるべく早く自習を始めると習慣をつけると本番でも集中できると思います。

さてこれも壺溪塾の伝統ですが、壺溪塾で教鞭を執る講師の先生達はとても個性的で楽しい先生が多いのです。高校にはいないような先生、服装も自由でネクタイをしめていない先生も多いです。熱い先生もいます。暑苦しいくらいかもしれない。皆さんを合格させたいとの熱意に溢れています。どうかそんな個性派揃いの先生との出会いも楽しんでください。

それから仲間との出会いを楽しんでください。がっかりしているのは自分だけではありません。ここには来年こそという覚悟を持つ友が多数集まっています。壺溪塾では尊敬できる人、すごいな！頑張っているな！と思える友に出会えるはずですよ。必修自習やエンドレスの日常の中で出会うことになる傍で懸命に闘っている友を体感してください。一生の友に壺溪塾で出会えたという方は多くいらっしゃいます。

そして一番楽しみなのは自分との出会いです。皆さんの中には、現役のとき、とてがんだらばったのに第一志望校に今一步届かなかったという方もいらっしゃるでしょうし、正直、なかなか思うように勉強が進まなかったという方もいらっしゃるでしょう。そんな方は壺溪塾でこんなに頑張れるんだというすごい自分。これまでで一番きついけれど、一番充実していると感じられる自分との出会いが待っています。「心を磨く」ということを目標としたとき、その本質的な努力はきっと十年後の自分への大きなプレゼントになるに違いありません。これまでで一番頑張っているすごい自分との出会いも楽しんでください。



壺溪塾での勉学の日々は単に大学に通るために細切れの知識を断片的にインプットすることだけに使うものではありません。もちろんそんな地道な努力も大事ですが、「知性を磨く」という視点も大切ですよ。しっかりと勉強を深めていくときインプットした膨大な知識がきつと先々で役に立つと信じていることです。またその知識を何のために使うのかを片隅でもいので、意識していることも大切です。

私たちがこれから生きていく社会には解決すべき大きな問題が数多くあります。ウクライナで行われている戦争。この瞬間にも平和な日常が分断され子どもたちや市民の命が銃弾にさらされています。また目を空に転じるとオゾン層が破壊され、温暖化が進み洪水や異常気象などの、天災、いや人災といふべき事象が数多くおこり、地球そのものが危険にさらされています。考え出すと暗く絶望的な気分になってしまうような問題が山積している私たちの社会。その社会を将来的に支えていく皆さんたちには知性を磨き、その知性をどう活かしていくのかを考えること、つまり知識を単なるインテリジェンスに留めるだけではなく、より良きものに活かす、「英知、ウイズダム」にまで高める人間性が求められているのです。英知というときそこには自分のためだけの考えではなく、自分以外の他者のために力を尽くすという方向性があるような気がします。

今学んでいることにしっかりと取り組みながらその意味についても心の隅で意識しつつ進んでください。浪人がどちらかと言えば少数派となった今、お子様に今一度志望校にチャレンジする機会を与えてくださったことを心より感謝いたします。お子様の姿を見守る大変さはいかばかりかと拝察いたします。担任をはじめ壺溪塾のスタッフが支えていきますし、私も保護者の皆様に「塾長相談室」を聞いておりますので、お気軽にご連絡ください。私たちは保護者の皆様と連携して塾生の皆さんをサポートしていきたいと思っております。

新入塾生の皆さん、皆さんの今の悔しい気持ちを胸に刻み、明日からは明るい気持ちで勉学に集中しましょう。皆さんを心から応援します。壺溪塾生、ファイト！



# 壺溪塾 卒業生による激励の言葉

東京大学 文科Ⅱ類 一年 古京 和樹さん（一組在籍）

みなさんこんにちは。古京和樹といいます。この一年を壺溪塾で過ごし、この春東京大学の文科二類に入學しました。今日は、みなさまがこれから壺溪塾で送る一年に向けてのささいな気づきや刺激になれるようお願いながら、私がこれまで歩んできた道と、その歩き方についてお話ししようと思います。私のプライベートな経験も含み少し長くお話しすることになりますが、耳を傾けられてください。



私は「未来和樹」という名前でミュージカル俳優として活動しています。はじまりは中学二年生の頃でした。ピリー・エリオットという世界的なミュージカルの日本公演で、主役を演じる少年を探している、と。歌と踊りを愛していた私は飛びつきました。それは倍率数百倍の狭き門で、一年に渡る歌やダンスのレッスンのなかで徐々に候補を絞っていく大規模オーディションでした。私は考えました。どうすれば学んだことを最大限吸収して成長できるだろう。私はノートを買って、レッスンの中で先生に言われたことを片っ端から記憶して、レッスンの終わるやいなや全て書き出すことにしました。そしてそれを次のレッスンの前に読み返せば、前回注意された点を漏れなく自分のものにできるのではないか。これを続けたところ、みるみる自分が上手になっていくのが分かりました。そして、死に物狂いでくらすきました。朝起きて数時間かけてストレッチや筋トレをして、毎回レッスンの2、3時間前にはレッスン場に到着して一人黙々と練習。できない所を納得が行くまで何十回も何百回も繰り返しました。頑張りすぎだとスタッフの方に何度も怒られましたし、思うように踊れない自分にいらついで、鏡の向こう側の自分を泣きながら殴りつけたこともありました。こうした苦しみもがき、喘ぎ悶える日々の末、ついに主役を掴み取りました。それまでの人生で一番大きな努力でした。舞台の上には、言葉に収まらない喜びが待っていました。鳴りやまない拍手と歓声の嵐に、毎日が夢のようでした。数か月にわたる公演の中、主役は五人で交代交代に演じていたのですが、私は一番最後の公演を任せられました。今まで本当に大変だったけど、頑張ってきてよかった。最後は大きな喜びで締めくくられる。その日を心待ちにしていました。しかし、

夢は悪夢を描き始めます。脚の痛みが日に日に大きくなり、公演期間の途中で舞台を降りざるを得なくなりました。降板が決まった昼下がり、雨の中歩道にしゃがみ込んで泣き叫びました。努力が望むように実を結ばない無情さに、苦しみの先にさらなる苦しみがあるやるせなさに、毎日泣き続け、それでも泣けど泣けど心の傷は癒えず、涙と無力感の間で振り回される日々が続きました。それまでの人生で一番大きな挫折でした。それから半年ほどはピリーの舞台に再び立って歌い、踊る夢を定期的に見ました。そんな中でも、通信制の高校に進学して、勉強する暇もなく、ミュージカルの舞台やライブでせわしなく東京と熊本を往復する日々が始まりました。高二の秋、当時出ていた舞台を最後に、一切の活動を休むことにしました。受験勉強をする覚悟を決めたんです。もともと新しい何かを知ることが好きで、勉強に対しては楽しく思っていたので、せっかく大学に行くならば、日本で一番の知と、出会いと、信用が得られるだろう東大に行こう、と。今思っても無謀な話です。塾はおろか高校さえろくに行っていないませんでしたから、高校の勉強など無に近しいものでした。私は、考えました。どうすれば学んだことを最も効率的に吸収し成長することができるだろう。書店やネットで勉強法について調べまくり、合格体験記や参考書やその進め方を確立させていきました。月ごと、週ごと、日ごとのスケジュールを緻密にたて、その完遂に全力を注ぎました。そして、死に物狂いでくらすきました。朝から晩まで、ご飯も忘れるくらいに必死で机に向かい、何時まで勉強しているんだと毎晩母の怒鳴り声が聞こえてきました。ご飯でもお風呂でも勉強のことを考えるあまり顔から表情はなくなり、少しでもぼうっとすると自分に苛立つてもっとやれと喚き散らす。少しづつ、勉強の楽しさを忘れていきました。とにかく、普通の受験生よりも遅れてスタートした勉強をどうにか間に合わせよう。周りには頼れる存在も、同じ志を持つ同志もおらず、自分だけの、自分との、静かなたたかいです。この時の私を持ち上げ、支えていたものは何でしょう。それは、ピリーの舞台に向けて必死に踏ん張っていたころの自分だと、今はわかります。あの時あんなに頑張れたのだから、今の大変さなんてまだまだ。どうってことない。そういった意識が心の奥底で光り続けていたのでしょうか。こうして息継ぎすることなく泳ぎ続け、はじめは軒並みEだった判定もCぐらいにまでは上がり、入試本番を迎えました。祈るような気持ちで結果を待ちました。しかし、私に春は訪れませんでした。でも、そこまで大きなショックではありませんでした。「もう一度」がない挫折の、やり場のない絶望を味わった自分は、大きく躓いてもなお今一度挑戦ができることに、かけがえのないなさを感じたのでしょうか。この時は、あの両肩に重石を乗せたような暗い日々をあと一年も繰り返すことになるのかという現実に、ただ

ただ気が遠くなっていたのでした。とにかく、もはや苦痛の象徴のような存在になっていた自分の机でこれ以上勉強するのは嫌だという理由で、壺溪塾の説明会に行きました。私は驚きます。先生方も教室も、こんなに明るくてアットホームな環境があるんだ。ここなら受験勉強を苦痛と感じることなく一年間踏ん張ることができそう、と、これからの一年をここで過ごすことに決めました。そうして、



壺溪塾正門横の桜

また私は考えました。でも今度は一人ではありません。壺溪塾の先生方が、インスピレーションと支えを与えてくださります。私は、一年後に確実に東大に合格すべく、緻密な計画を立てました。東大合格者の開示得点を集計しているサイトをみつけ、科目ごとに合格者平均点と点数の標準偏差を調べました。英語と数学が、国語や社会に比べはるかに標準偏差が大きい。つまり、これらを得意教科にすれば他の受験生と差をつけやすいということですね。特に英語が、自分の得点と合格者平均点との差が大きかったので、英語、次に数学を中心に据えて一年間勉強を進めることにしました。担任の先生や各教科の先生方にたくさん相談をしました。先生方はどんな相談やお願いも快く引き受けてくださって、本気で受験生のことを想って接してくださるのが伝わり、一人黙々と机に向かっていた頃には感じることもなかった、心があたたかくなっていく気持ちにいつも包まれました。先生方の授業には、これまで幾多の受験生をみてこられた経験の重みを感じられ、数学のエンドレスは、私にとって単なる演習ではなく、精神鍛錬の場でした。終わった人から帰路につき、誰が早く終わったのかが一目でわかる緊張感は、入試本番の張り詰めた空気に重なるものがあり、毎週本番の心意気で挑み、緊張感のなか自分の持てる力をミスなく発揮する訓練を積めたことは、他の受験生に対する大きなアドバンテージになったことと思います。そして何より、仲間の存在が私にとって大きいものでした。いつも教室に入ると、同じゴールを目指す仲間が真剣な顔で机に向かっていて。それは同志として私の心をほぐしてくれると同時に、ライバルとして身体を張り詰めさせる。休み時間には何気ない会話をし、本当に楽しく思っていました。楽しむこと、それは現役の頃の自分が避けていたことでした。感情なんていらぬ。心を鬼に

してとにかく勉強に集中しろ。休み時間にだらだら話すなんて持っていたのほか、その時間があたら勉強しろ、そう思っていました。でも、壺溪塾での毎日が始まってからは、一息ついてちょっとした会話を楽しむ時間と集中する時間、メリハリをつけてみることにしました。すると、心に余裕が生まれ、ミスなく答えが出せたとき、読んだ英文の内容が興味深かったとき、そういった勉強のなかでのささいな瞬間にも楽しさを見出せるようになり、勉強が楽しいという感覚を久しぶりに取り戻せたんです。私は詳しいことは存じませんが、幸せを感じる、ベータエンドルフィンというホルモンが分泌されて集中力の向上に繋がるそうです。こうして、壺溪塾という明るい環境が心の環境も明るくしてくれて、ついにこの春東京大学 文科二類に合格を頂き、私の二年と少しの大きな挑戦は幕を閉じました。何かに向かい努力をしたことがあるというのは、とても強いことです。何かに躓いたことがあるというのは、一度も膨らませたことのない風船を膨らませることよりも、遥かに力がいらぬ。努力した経験は、次に努力するときのエンジンとなり、躓いた経験は、次に躓くときのクッションとなり、だから、これまでの努力や躓きには誇りを持ち、これから、ふわふわ落ち着かない一年が待っていることと思います。私が唯一自信をもってアドバイスできるとすれば、どうぞ自らの頭で十二分に考えられてください、ということですね。合格には何が必要で、今の自分には何が足りないのかを徹底的に考えた上で緻密な計画を立てることができている受験生は、今までの私の周りを見回してみてもそう多くはありません。壺溪塾の先生方の強力な力を借りながら、それを試してみるだけでも大きなアドバンテージになることと思います。それでは、これから壺溪塾で過ごす一年間を、たくさん楽しまれてください。ありがとうございます。



# 壺溪塾 卒業生による激励の言葉

熊本大学 医学部 一年 岡部 文奈さん (一一組在籍)

皆さんこんにちは。この春熊本大学医学部医学科に進学した岡部文奈とい  
います。今、この瞬間、来年の合格に向けてやる気に満ち溢れている人、ま  
だ現実を受け入れられず落ち込んでいる人、皆さんの心境はそれぞれ異なる  
と思います。昨年の私は五月ごろまで気持ちが沈んだままでした。これから  
話すことが皆さんにとって少しでも役に立てたらとの想いでこの場に立たせ  
ていただきました。

私は壺溪塾での一年間を経て合格するこ  
とが出来ましたが、この一年の勉強におい  
て良かった点、改善すべき点、それぞれあ  
ります。理想通りの勉強をし、成績をとっ  
て入試に臨むことは誰もできません。勉強  
方法に正解もありません。同じ勉強方法で  
あっても、成果が出るとそれは良い方法だ  
ったと思うだろうし、上手くいかないと思  
わない方法だったと思うため結果が出るま  
でその方法が正解であるかどうかは誰にも  
分からないのです。その中で、自分の力を  
伸ばすために大切なのは、自己分析をして  
軌道修正をしながら行動に移すことだと私  
は考えています。

私の勉強スタイルは現役の時毎日ペースを変えることがなく、一日平均十  
時間以上の勉強が当たり前というものでした。しかし結果が不合格となった  
ためこの勉強スタイルから見直すことにしました。

毎日コツコツとやればいいとずっと思っていました。しかし本番に向けべ  
ースを上げて集中的に勉強すること、そして効率よく、より頭に残るよう  
な勉強をするこの二つが自分には足りなかったのではないかと考えました。こ  
のことに気づいてから私は壺溪塾の一年間で主に二つのことを実践しまし  
た。一つ目は自分で良い結果を出したい模試を決めその一週間前はギアを上  
げて勉強すること、二つ目は時間よりも効率を意識し勉強することです。前  
日のうちに明日のやる事を決め、終わったら自分の好きなように時間を使っ  
ていました。今話したことはあくまで私の例ですが、皆さんも昨年の自分を  
分析し改善できることを書き出してみてください。



次に理系の方に向けてお話ししようと思います。理系の方で入試に数学がな  
い方はほばいないかと思えます。数学が何より大事です。数学が一番時間を割  
いてください。私は夏休みが終わるまでは全勉強時間の八割くらいを数学に割  
いていました。それは数学が一番成績を上げるのに時間がかかる教科だとわか  
っていたからです。周囲には少しでも成績を上げようとして数学よりも成績が  
伸びやすい理科から勉強していた友人を目の当たりにし自分は数学ばかり勉強  
していいのだろうかと思ったりもありません。しかし夏を過ぎると着実に  
数学が伸び始め、得点源となり自分がやってきたことに自信が持てる様にな  
りました。周り自分と自分をこの点で比較すると、早いうちに数学に時間を多く費  
やしたことはよかったですと言えます。

主に壺溪塾のテキストの予習復習、エンドレスの解き直しや発見した苦手単  
元の克服を行っていました。エンドレスは数学に自信がある人以外にとつて  
は、初めは三時間内に解き終わらず苦痛に思うかもしれませんが、でも逃げない  
で欲しいです。エンドレスで培った力は初見の問題に出会った時に必ず生きま  
す。

最後に私が壺溪塾での一年間の生活面で意識していたことをお話ししようと思  
います。浪人生は現役の時より自由に使える時間が圧倒的に多いので自己管理の  
必要性がとて大きいのです。勉強に多くの時間を費やせる反面、計画を立てな  
いとだらだらとしてしまったりという間に一年が過ぎてしまっています。そこで私  
は規則的なリズムを作るために自習室に毎日行くように心がけていました。時  
には行きたくない、勉強したくないと思う日もありましたがそんな時は頑張っ  
ている周りの人を目の前に意識するようにして大きな励みとしました。もう一  
つ心がけていたのは自分の時間を作ることです。四六時中勉強のことだ  
け考えていると狂いそうになります。私は毎日塾で閉館まで勉強し家では家族  
と話し、犬と遊び、動画を見てバレエのレッスンにも行っていました。オンと  
オフを分けることで次の楽しみに向けて勉強に励むことが出来ると思えます。

最後にSNSとの付き合い方です。私は昨年一年間インスタグラムを封印し  
ていました。大学生になった友人が遊んでいる姿を見せると羨ましいと思  
い、どうして自分はこんなに勉強しているのだろうか心が疲れてしまうのが怖  
かったからです。SNSを適切に楽しむことはとても難しいと私は考えていた  
ので今は自分の選択は間違っていないかと思っています。

これからの一年間、何のために浪人したのかと常に自分に問いかけながら日  
々学ぶものを積み上げていけばきっと一年後には充実した結果が得られます  
自分ができること信じ壺溪の先生方を信じてください。皆さんが来春を満面の笑  
顔で迎えらるる事を壺溪塾卒業生として心より願っています。

## 壺溪塾 卒業生による激励の言葉

熊本大学 法学部 一年 野田 唯那さん (三組在籍)

皆さんこんにちは。今年熊本大学法学部に入学した野田唯那です。壺溪塾で一年浪人し無事志望校に合格することができました。今回私の一年間の浪人生活から得た学びを皆さんにお話しする機会をいただきました。参考程度に聞いていただくと嬉しいです。

まず初めに私が浪人することとなった経緯をお話しします。私は現役時受験した大学が全て不合格という結果でした。国公立大学から私立大学まで全てです。

不合格となった原因はいくつかあります。中でも大きな原因は「勉強に対する姿勢」でした。今思い返せば現役時の私は解けない問題を先生や友達に聞いて分かったつもりのまま満足し、自力で解き直す作業を怠っていました。そのため次回ような問題が出題されても、初見の問題に感じ、解けないことが多々ありました。ここで一つ目のアドバイスです。自分の分からない問題は、できるようにするまで、自分が理解して友達に教えることが



とができるようになるまで自分の頭で考え、手を動かし、繰り返し解いてみてください。私は特に数学が苦手な予習がままならなかったのですが、復習に力を入れ、苦手を単元を何度も何度も繰り返し解いたので後半模試の点数が伸びました。最初はしんどく勉強が面白くないかもしれませんが、継続するうちに解ける問題が増えていくのではないかと思います。より実践的に勉強したい方は壺溪塾オリジナルの共通テスト数学エンドレス講座をぜひ受講してみてください。

また、入塾したての時期は大学合格への強い意識やプレッシャーから不安や焦りを感じ難い問題を解いたり、レベルの高い参考書をついつい手に取りがちです。私も昨年のこの時期は気持ちの焦りからか英語のレベル別のクラス分けに納得ができず、クラス変更を先生に申し出ようと思ったこともありました。

しかし、まずは基礎固めが大切です。基礎ができていなければ当たり前ですが解ける問題も解けません。壺溪塾のカリキュラムは基礎内容から始まり、最終的に試験に対応する力を養うことができるように設定されているので、まずは授業をしっかり受講し、基礎固めをしてください。また壺溪塾では毎日授業が終わった後二時間の必修自習の時間が設けられています。授業のない土日も自習室は利用できます。この時間を上手く活用して復習をしっかり行ってください。

そして最後に、記述の勉強です。壺溪塾は高校に比べ実践的な記述問題を扱う授業が多いので、しっかり対策をすれば、壺溪塾生は二次の記述試験でかなり有利になります。私は二次試験が国語と英語だったのですが、どちらも記述となると模試の点数はあまり取れていませんでした。しかし先生方は授業の中で各教科記述のポイントを分かりやすく的確に教えてくださったので、夏から秋ごろにかけてはスラスラと書けるようになりました。また、熊大英語や熊大国語など大学別の入試問題を扱う特別授業が開講されるので、一年間を通して過去問に触れることができます。記述力をしっかり磨き、他の受験生より一歩リードして入試本番を迎えましょう。

入試本番はとても緊張します。入試は一度きりなので自分の力を十分に發揮するためにも落ち着いて試験に臨まなければなりません。私は今年の共通テストの試験開始前に壺溪塾の伝統である静坐を組みました。とても緊張していたのですが、気持ち落ち着かせている私を見て試験官の先生が優しく微笑んでくださいました。それによって緊張が解けたのを今でも覚えています。入試直前は今までの自分の頑張りを持ち帰りながら静坐を組むと落ち着いて試験に臨めるかもしれません。ぜひ実践してみてください。

最後になりますが、予備校生として過ごす一年は長いように見えてあっという間です。後になって時間がないと焦るのではなく、最初のうちからコツコツ勉強を進めましょう。しかしながら、勉強を進めていてもなかなか成績が上がらないと不安に感じることもあるかもしれません。でもそこで勉強を止めてしまおうと後から後悔します。そんな時は担任の先生にぜひ相談しに行ってみてください。塾生の悩みを丁寧に聞いてくださり、優しくアドバイスをくださいます。相談の他にも面談では生活習慣や体調面も気にかけてくださり、健康に一年間頑張ることができました。

一年後の春後悔することなく皆さんが受験を終えることができることを願っています。今年経験した悔しさはいつでも皆さんの原動力となります。この悔しさを忘れることなく、たまには息抜きをしながら自分のペースで頑張ってください。最後まで聞いてくださってありがとうございます。来年の春、皆さんに明るい春が訪れることを心から願っています。

塾長をはじめ、各教科の講師陣等、全員でサポートします。



英語



役員



数学



国語



体育



社会



理科



警備



教務



受付開始



サーモセンサーで体温チェック、アルコール消毒をして入場



塾生席



激励に来てくれた先輩